

OAC クリエイターサロン 第4回レポート

「みんな AI どうしてる？」

開催日：2026 年 7 月 9 日（木）18:00～21:00

会場：OAC 事務局&ZOOM 参加者：29 名

生成 AI が日々進化を続ける中、広告・デザイン業界の第一線で活躍するクリエイターたちは、実際どのように AI と付き合っているのか。

第4回 OAC クリエイターサロンでは「みんな AI どうしてる？」をテーマに、コピーライター、デザイナー、フォトグラファー、プロダクションマネージャーなど、

さまざまな職種のメンバーが本音で語り合いました。

司会は宣伝会議の吉田氏。今回は初参加のメンバーも加わり職種・業界の垣根を越えた交流の場となりました。

クライアント企業の AI 活用事例

冒頭では、OAC が昨年 12 月に開催したセミナーをもとに、クライアント企業の AI 活用事例が紹介されました。

社内に蓄積されたプロンプト集をはじめ、有志が集う「生成 AI フレンド会」の設立、AI 同士に架空のペルソナを演じさせて商品戦略を議論させる手法など、クライアント側でも生成 AI の活用が着実に進んでいる様子が共有されました。

続けて AI 関連市場が急拡大しているという業界動向の紹介があり、「AI が脅威というフェーズはすでに過ぎ、使いこなせないことの方がリスク」という指摘が印象的でした。

職種ごとに異なる AI との向き合い方

ディスカッションでは、職種によって AI の使い方が大きく異なることが浮き彫りになりました。

- **コピーライター**：仮説出しや表現の壁打ちに AI を活用しつつ、「言葉を選ぶ最終判断は人間の領域」という意識を持つ声が多数。
- **デザイナー**：これまで実現が難しいと思われていた表現の幅が広がった一方、最終的なチェックは必ず人の目で行うという姿勢が共通していました。
- **フォトグラファー**：撮影現場でのリアルタイムな画像調整に AI を活用する一方、不自然な仕上がりにならないよう注意が必要という声も。

また翻訳業務での活用効果を実感しているという実践的な意見も上がりました。

一方で、AI 生成によるカンプ（提案用ビジュアル）制作が主流になりつつある中、タレントの肖像権や著作権への配慮など、実務上の課題についても率直な議論が交わされました。

AI がもたらすであろう「均質化」への危機感、そして人間力への期待

AI が拾ってくるネタが共通していると、誰もがそこそこ高品質なアウトプットを作れるかもしれないが、「クリエイティブがコモディティ化（均質化）してしまうのでは」という懸念も共有されました。

また人と語らいや生の感情を拾う、日々の小さな違和感を大切にするなど、AI には代替できない「人間ならではの経験値」をどう磨いていくかが、今後の重要なテーマとして浮かび上がりました。

最終的な判断を人間が下す前提に立つと、クリティカルシンキング（批判的思考）で、情報を鵜呑みにせず、客観的な視点と論理的な根拠に基づいて多角的に検証し、物事の「本質」を見極める必要があるはず。

そのためには、AI が進化し続けるのと同様に「人間ならではの経験値」、「人間力」を磨いていくことが大切になります。

教育現場からの視点として、「AI の活用法は模索段階であり、経験の少ない学生たちがどう向き合うべきか、答えはまだ出ていない」というリアルな声も寄せられました。

今後のサロンで話したいテーマ

後半のディスカッションでは、次回以降のクリエイターサロンで扱ってほしいテーマについてもアイデアが次々と挙がりました。

- ・ クリエイターの「やっちゃった！」失敗談
- ・ 面倒なクライアントとの向き合い方
- ・ キャリア選択や転職のきっかけ
- ・ 若手だけで本音を語る「アンダー35 の会」
- ・ 影響を受けた作品・人物について
- ・ 仕事のモチベーションの保ち方 など

会社の枠を超えた同業者同士だからこそ話せる本音が、次々と飛び出す活気あるセッションとなりました。

次回予告

第5回 OAC クリエイターサロン 2026年9月10日（木）18:00～
テーマ：「死ぬかと思った大失敗！」

今だから笑って話せる「あの日のやっちゃった」。先輩諸氏のエピソードを聞いて、実は私も…と話は尽きないかも。

さてどんな話が飛び出すか。失敗から学ぶ9月もお楽しみください。

OAC クリエイターサロンは、広告・クリエイティブ業界で働く人たちが会社の垣根を越えて集まり、本音で語り合う交流の場です。

ご興味を持たれた方は、ぜひ事務局小平（おだいら）までご連絡ください。

info@oac.or.jp